

# 熊本地震の教訓を生かすべき 田中市議が規制庁を調査



規制庁を調査する田中市議

田中はじめ市議は5月15日、仁比聡平参院議員の尽力で、参議院議員会館で熊本地震の受け止めについて原子力規制庁に対する調査を行いました。規制庁は、

小林技術基盤グループ主任調査官他3名が対応しました。調査では、規制庁の熊本地震研究が、阿蘇方面が対象で、益城町は対象外の理由について、「地震本部の活断層評価で19Kmとされた布田川・日奈久断層が東側（阿蘇方面）に伸び、34Km動いたことにつき調査を優先した。益城町で断層層が出現したが、動いた活断層の長さは地震本部の評価の範囲内であり、副断層も活断層のずれに伴って起こりうることを考える。よって調査対象としていない。」

## 明日を見つめて

### 新たな挑戦の決意③

今回の参議院予定候補に決まる前のこと。日御碕の近くの山に登った帰り、休憩に寄った古民家カフェで、「中林さんに助けられたことがあるのです」と店の奥さん。その方が30数年前、大社の役場に勤務していた当時、女性の若年定年制のことを私が取り上



中林よし子 予定候補

せていただきます。農作業の機械化が進み労働災害も多くなり安全対策を求めめる質問では、誤った草刈り機の使い方での死亡事故が起きた島根県の事例を示しました。トラクター運転席への安全柵

と述べました。また、平行または交差する複数の活断層の感覚が広がるまたは狭まるなどの活動により、その間の地域が地盤沈下あるいは地盤隆起するなどの事象についての問題意識について、「その意味で、益城町の事象は、国内では今までになかった事象と言える。活断層周辺が揺れるだけでなく変形する事象全体については今後の研究課題。ただし、その事象が原発敷地に到達するかどうかについては、3次元的に地層を調査することとシミュレートできていると考えている。」と述べました。

設置、農業などの説明文を大きくすることなど、今に生きています。益田市の国営農地開発事業で、山を切り開いてできた農地が石ころだらけで営農ができませんとの訴えには、その石ころを持って農水省に出かけました。国はすぐ石ころを取り除いたとの報告を受け、お役に立てて良かったと胸を撫でおろしたことを覚えていま

## ごみ袋の不足問題 松江市議団が市民の声を届け申し入れ

### ごみ袋の不足問題 原因、現状、解決策は？

日本共産党市議団は、燃やせるごみ袋の不足問題について、5月21日に松江市に対して市民の声を伝えて申し入れを行い、①問題が拡大した原因の認識、②当面の現状認識と課題解決の方向、③再びこのような事態を起ささないための根本的な対策などについて懇談しました。

この申し入れには、環境保全部リサイクル都市推進課の昌子悟課長と田村裕二清掃総務係長が対応しました。

### ごみ袋の調達は国内に切り替えるべき

まず、現状について、中国から境港に船便で入る際に手間取ったが、5月10日



ごみ袋問題申し入れ

に入り、その後5月16日、次は21日と入荷し、不足は解消される見込みであるとのことでした。地産池消の方針から、ごみ袋は市内の業者に発注しているが、その業者が東京にある袋の製造本先に発注し、その会社がさらに中国で製造した袋を輸入しているという、複雑な実態であることが判明しました。

生活に欠くことのできないごみ袋は、確実に手に入る仕組みを作る必要があり、国内生産に切り替えるべきであることを主張しました。これに対し「今後、国内生産の方向で検討する」との回答でした。

### 知らない人がいることを前提にした行政施策を

自治会に入っていない人、高齢者、学生などへの周知は広報だけでなく、別のペーパーで大きな字でわかりやすくする、周知の方法も広げる必要があることを確認しました。

3月末に、市民が袋の交換のために環境センターに訪れた問題については、3月の市報に「4月1日から交換する」という一歩知らせなければならぬことが明らかになっていなかったことが明らかになりました。

かになりました。

交換などで必要な量が準備できなかったこと、交換が環境センター一か所であったこと、支所で交換できなかったことなど、市の対応が市民本位ではないとの批判も寄せられていると指摘しました。

市議団は、知らせる工夫をすることともに、知らない人もいることを前提とした施策を工夫してほしいと要望しました。

### ごみ問題の解決は市民の理解と協力が必要

新ごみ処理施設ができた時、市は市民に「何でも燃やせる」と説明し、その意識が市民に広がりました。

しかし、燃やせるごみの量が増え続けて減量に迫られ、ゴミ袋の値上げでごみ減量を誘導する方法がとられました。

リサイクルの推進でごみの量が減れば値上げの負担は少ないと、市は説明してきましたが、市民からは値上げの前にまず減量の努力をすべきとの批判の声も上がっていました。

今回の問題では、値上げに加えてその袋が手に入らないという結果となり、市民の不信は強まりました。ごみ問題は行政と住民の信頼関係があってこそ効果が上がることを、議員団として強調しました。